

平成29年10月31日

保護者様

練馬区立北町西小学校長 吉川文章

東京都学力向上を図るための調査の分析と今後の学力向上に向けた取り組みについて

保護者の皆様におかれましては、日頃から本校の教育活動へのご理解ご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、今年度7月に実施しました表記の調査について、東京都教育委員会から結果がまいりましたので下記のとおり分析・考察等をするとともに、本校のこれからの学力向上の取り組みについても発信をいたします。今後も学校と家庭で連携をして児童の学力を高めていく節目となれば幸いに存じます。

## 記

### 1 問題の説明

国語、社会、算数、理科の4教科の調査を行いました。各教科ともA問題とB問題に分かれています。A問題とは、基礎的・基本的な知識、技能の力を問う調査です。それに対して、B問題は、基礎的・基本的な知識や技能を生かして解く力、いわゆる対応力、問題解決能力を問う問題です。文部科学省は、このB問題を解く力がこれからの生きる力に結びつくと考えています。当然のことながら、B問題を解く前提として基礎学力（A問題を解く力）が必要なのは、言うまでもありません。

### 2 結果の概要（数値は、平均正答率を%で表しています）

まず、教科毎の結果をお伝えします。

#### 【平成29年度（今年度）結果】

	国語	社会	算数	理科
本校	67.9	71.9	62.5	70.2
東京都（公立）	68.1	71.8	60.7	72.2

グレーで色を付けている部分は、都の平均を上回っている項目です。ご覧の通り、社会と算数で都の平均を上回りました。理科は2ポイント下回りましたが、国語は都の平均に迫るという結果となりました。

次に教科毎のA問題とB問題での結果を見えます。

#### 【平成29年度（A、B問題毎）結果】

	国語A	社会A	算数A	理科A
本校	68.4	78.3	66.8	69.2
東京都（公立）	67.5	76.1	63.7	69.4

A問題については、3教科で都の平均を上回りました。理科についても都の平均点に近い数値です。特に、算数の伸びが顕著です。東京ベーシックドリルや学習補充教室で地道な取り組みをしてきた成果でもあります。先月の国の調査特別号でお伝えした結果も同じ傾向にあることから、本校では基礎基本の学力が着実に身に付いてきていることがわかります。

	国語B	社会B	算数B	理科B
本校	65.1	57.4	44.0	72.4
東京都（公立）	71.7	61.9	47.9	78.9

一方で、B問題については、いずれも都平均を大きく下回っています。国調査の考察でも申し上げた通り、これから北町西小に取り組みなくてはならないミッションは「問題解決能力の育成」であることが明白です。国調査で示した学力アクションの取り組みを重点的に行うことで授業の内容を「主体的、対話的な深い学び」にしていくことが求められます。

次に、観点別の調査結果で主だった項目についてお伝えいたします。（裏面へ）

【観点別結果（A問題、思考・判断・表現）】

	国語	社会	算数	理科
本校	75.0	76.4	56.9	73.0
東京都（公立）	71.2	75.5	50.3	66.5

【観点別結果（B問題、解決する力）】

	国語	社会	算数	理科
本校	64.1	49.2	7.8	70.3
東京都（公立）	66.9	52.1	7.5	75.3

「A問題、思考・判断・表現」の力がどの教科も都の平均を上回る一方で、「B問題、解決する力」が都の平均から離されているという結果が如実に表れました。前頁でお伝えした本校の目指すべき「問題解決能力の育成」の方向性がより確かであるというエビデンスベースの結果でもあります。「B問題、解決する力」を身に付けていくことを、今後の学力向上の中核に据えてまいります。問題解決能力は、「既習事項を生かす」ことが必須となります。基礎基本の力が着実に身に付いてきているというデータからも今後の学力上に向けての期待が高まる前向きなデータでもありと考えています。

以下、国調査の結果（先月特別号）でお伝えした具体的なミッションや家庭との連携について再度発信をいたします。

本校では、現在、「学力向上アクション」として、このような取り組みを始めています。以下は、その概要です。キーワードは、「勉強って楽しい」です。

【アクション1】B問題の趣旨を通常の学習指導に生かす

B問題は、問題解決能力を問われるものです。既習の知識や技能をもとに、出会ったことのない課題を解決する学習形態はこれからの日本の潮流となります。文部科学省から配布される国調査の解説資料（B問題）の考え方を先生たちの指導書でも取り上げられるようにして、ふだんの授業により問題解決的な視点を盛り込みます。

【アクション2】先生たちによる自作問題の作成

北西小の実態に合ったB問題を先生たち自身で作成をします。それはやがて、「子どもたちがポジティブにアクティブに」学ぶ環境にもつながると考えます。将来的には、「クイズグランプリ（学力選手権）」の開催を計画しています。

この2年ほど「アクティブ・ラーニング」という言葉が日本の教育（改訂学習指導要領）のキーワードになっていることはご存じの通りです。現在ではそれを、「主体的で対話的な深い学び」と呼んでいます。私は、これを問題を解く力を解く過程の中で、以下の3つの資質能力を育成することであると考えています。

生きて働く知識・技能を身に付け

未知の課題にも対応できる思考判断力や表現力を身に付け

学んだことを人生に生かそうとする力や人間性を育てる

つまり、国語や算数、社会や理科のみならず、学級会の話合いや道徳、総合的な学習の時間などの全教育活動を通して、上記の3つの能力を身に付けるための学習を意図的、効果的に授業に取り入れていくことが必要です。

家庭との連携

「三食をきちんと摂る」「早寝早起きをする」は学力向上と相関関係の深い生活習慣です。さらに、学力向上というより心身の発達に欠かせないことです。家庭での最優先事項として徹底をお願いいたします。

家庭学習や地域の行事への参加については、今後も学校から積極的に発信をしてまいります。さらに密接な連携が図られますようご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

